

<様式>

学校名	山形市立第九中学校 山形市大字津金沢字中谷地657番地 TEL 688-2220 FAX 688-9045	校長 庄司 秀一
		研究主任 秋場 千幸
研究主題	深く考え、学びを伝え合う生徒の育成	
研究主題設定の理由	<p>(1) 昨年度までの研究から</p> <p>昨年度まで6年間、「深く考え、学びを伝え合う生徒の育成」の研究主題の元、学びの質を高める授業づくりを通して、深く考え、自分の考えを相手に伝えるように表現する生徒の育成を目指して研究を進めてきた。その結果、単元構成や課題設定等に成果が見られた。今年度は、より生徒の実態に合わせた研究に取り組むために、教科ごとに研究テーマを設定し、そのテーマのもと生徒の育成にせまる。テーマにせまるための具体的な手立て等を考え、授業研究会ではその手立てが有効であったかなども踏まえ事後研究会を行い、教科ごとの研究を蓄積していく。</p> <p>(2) 本校の課題から</p> <p>教員アンケートを実施し、本校生徒の良さとして、</p> <ul style="list-style-type: none">○挙手発言が多く、自分の考えで堂々と活動できる生徒が多い○学習に前向きに取り組む生徒が多く、教え合いなどの対話的な学習が充実している○与えられた課題に対して積極的に取り組む生徒が多い○相手（先生、友人、など）の話をしっかり聴いている <p>などが挙げられた。</p> <p>一方課題として、</p> <ul style="list-style-type: none">①表現力（書く、まとめる、話す、説明する、など）が不足している②発展的な課題への取り組みが消極的である③思考や学びが深まっていない <p>ということが挙げられた。これらのことから、本校生徒は素直で、受動的な学習を得意としている姿が伺える。そこで、学習に対して「主体的」「能動的」な生徒を目指したいと考え、本主題を設定した。</p>	
研究の目標	<p>与えられた課題に対してだけでなく自ら主体的に学ぶ生徒、自分自身で主体的に課題を見つけたり、その課題を能動的に解決する方法を身につけたりして、社会で活躍する生徒の育成を目指し、以下の3つの力を生徒につける。</p> <ul style="list-style-type: none">①表現力（書く、まとめる、話す、説明する、など）②発展的な課題へ取り組む意欲③思考の深まり、深い学び	

<p>研究の内容</p>	<p>今年度は1年を通して教科ごとに研究テーマを設定し、学校研究を推進していく。研究テーマは、以下の3点から選択し、3学期に各教科から成果と課題を挙げてもらい、来年度の学校研究主題につなげていく。</p> <p>「研究テーマの選択肢」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 探究型学習の研究 2. 令和の日本型学校教育の実現 「個別最適な学習」と「協働的な学び」 3. GIGA スクール構想の実現による授業改善 <p>また、本校生徒の課題3つを受け、下記の2つの重点を設定し、授業を通して生徒の課題にせまる。</p> <p>重点1：見通しをもった授業デザイン（魅力ある課題づくり等で②と③にせまる）</p> <p>重点2：表現力が育つような学習活動の充実（①にせまる）</p>
<p>研究の方法</p>	<p>(1) 来年度の「研究主題」の検討</p> <p>研究を通して身につけさせたい資質・能力を検討し、生徒の育成に励む。</p> <p>(2) 授業実践の蓄積</p> <p>一人一授業：全員 A 面 B 面の指導案を書くことで授業改善を目指す。</p> <p>①指導主事等を招聘する授業研究会を2回実施する。授業者は名を予定。</p> <p>②それ以外の方は、週に1回時間割に組み込まれている教科部会で、授業を提供し、同じ教科の先生やその時間が空いている先生同士で参観する。翌週の教科部会で事後研を行い、授業改善を図る。</p> <p>(3) 事後研による振り返り</p> <p>現時点では KJ 法を検討している。重点1、2を視点として、生徒につけたい力にせまれていたか振り返り、日々の授業に活かす。</p>
<p>研究の計画</p>	<p>5 / 29 (月) 職員会議 (今年度の研究についての提案)</p> <p>7 / 13 (木) 校内授業研究会①</p> <p>10 / 2 (月) 校内授業研究会②</p> <p>～2学期末 授業実践「一人一授業」提案終了</p> <p>⇒各教科から成果と課題の提出 (研究テーマを通して)</p> <p>1月下旬 研究推進委員会</p> <p>⇒各教科の成果と課題を受け、来年度の研究主題検討</p> <p>3月上旬 来年度の研究主題決定</p> <p>⇒全職員の承認を得て、来年度実践できるよう準備を進める</p>